

## 編 集 後 記

この調査報告書は、鹿児島県立短期大学の地域研究所が設立されて20年を節目に新たに始めた調査研究事業のひとつの到達点を示すものである。鹿児島の地域社会に根ざした総合的な調査研究事業を推進しようという試みは、従来も伝統的な手法にもとづいて奄美を対象とした調査研究事業などが行われてきた。近年の鹿児島の地域社会が抱える社会問題の深刻さを考えると、伝統的手法それ自体を再検討することが必要となっている。なぜならば、今日の地域の社会問題は、地域固有の内部問題にとどまることをゆるさない広がり、それは時として国際的な連関をも視野に入れる必要のある広がりの中で、それぞれの地域の内部に潜在する社会問題を捉えることを要求するのである。

こうした今日の地域問題の新しさとその深刻さを、私たちの研究所もどの程度まで実践的に解明できる力量を備えているのかが問い直されなければならない。今回の調査研究事業は、そうした試みのひとつである。そして、この調査報告書は、佐多町で行った調査事業のすべてを網羅したものではないが、私たち地域研究所の実践的な調査活動のひとつの到達点を総括するものであることにはかわりはない。私たちを地域へと引きつける問題の深刻さと、地域で生活される皆さんの期待に対し、私たちの調査研究がどの程度まで応えることができたのかは、心もとない限りである。しかし、鹿児島県立短期大学の地域研究所は、今後も引き続き鹿児島の地域に内在しながら調査研究事業を続けてゆきたいと思っている。今回の調査研究活動に携わることによって、私たちにも問題の深刻さは実感を感じられた。こうした経験を今後も積み重ね、より問題意識を高め、社会調査の方法を改良しつつ、今後も活動してゆきたいと考えている。

最後に、今回の調査事業にあたり多くの方々のご協力を得たことに心より感謝の気持ちを述べさせていただきたい。佐多町役場の職員の方々や教育委員会の方々をはじめ、私たちの調査活動に心よく応じていただいた町民の方々の御協力なくしてこの拙い報告書を作成することもできなかった。公務多忙の中インタビューに応じていただいたのみならず数々の便宜をはかったいただいた黒木信一町長はじめ役場職員の方々、とりわけ、調査の段取りから資料提供まで協力を惜しまれなかった企画振興課・課長補佐岡村邦男氏の協力には深く感謝したい。

なお、私たちの調査研究事業は一過性のものとは考えていない。残した研究課題については引き続き調査研究を行うつもりである。さらに、この調査報告書によって私たちが佐多町をどのように把握し、何を問題提起したかったかなどにつき報告する機会ができることを願っている。

1996年2月6日

鹿児島県立短期大学  
地域研究所長 西 村 貢